

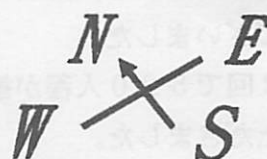
藤沢

2015年11月1日

第258号

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット



主
な
記
事

- ・「小さき声のカノン」上映
- ・どうにかならないか、交通渋滞
- ・海の汚染学習会 part 2
- ・放射能測定地 ・冊子紹介

http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa_econet/

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ / F A X 0466-87-4922

「津波と防災」の学習会

2011年3月11日に発生した三陸・常磐沖の巨大海底地震が引き金となって、巨大津波が沿岸を襲い、さらに、日本列島における最近の火山噴火続発の遠因となっております。1946年の昭和南海地震から70年が経過し、南海トラフも活動期に入りました。大噴火・大地震・大津波がいつ起こってもおかしくない時期に入ったようです。

それにしても、湘南地方の諸地域は、あまりにも津波に無防備です。行政当局の動きも見えません、日本列島南岸の場合、地震が発生してから津波が到達するまでの時間は、東北・常磐地方と比べて、ずっと短いのです。夜中に地震が起きたら、暗闇の中で、逃げる時間は限られております。もっとも心配されるのは、高齢者・障害者です。これらの方の安全をいかにして確保するか。これが、最大の問題です。これらの方を助けたそうとすると、助ける人も津波にまきこまれます。この悲劇は、3・11大津波でも数多く見られました。

防災の原則は、2つです。「防ぐ」と「離れる・逃げる」です。津波の場合、「防ぐ」は防潮堤です。3・11大津波では、世界最大といわれた巨大防潮堤が次ぎ次ぎと破壊されました。奥尻島では、日本海津波の後、巨額の義援金で島を取り巻く巨大防潮堤が作られましたが、20年経って劣化し、防潮堤のために景観が失われ、観光業・漁業が衰退し、人口が減少して、島が疲弊してしまいました。

津波防災の要諦は、「離れる・逃げる」です。職住分離です。海岸や河川の近くは、仕事の間として、とくに高齢者や障害者は、住まないことです。また、幅の広い直線避難道路を作ります。このためのまちづくりが急がれます。行政は、そのためのプランを持っているのでしょうか。

もうひとつ大事なものは、小中学校における防災教育です。「釜石の奇跡」は、防災教育から生まれました。

11月7日14時から、「津波と防災」の学習会が藤沢市民会館第1展示ホールで行われます。ご参加下さい。

当日の講師 川崎 健 (東北大学名誉教授)



ざる菊 (黄色の菊 石川で撮影)

「小さき声のカノン」湘南上映会

9月26日開催の「小さき声のカノン」上映にご協力ありがとうございました。

午前、午後と2回で520人程が観て、聞いて感動を味わっていただきました。

経費を差し引き収益金とカンパは福島の子どものための保養活動団体に分けて当てられることが決められ各保養団体はたいへんありがたです。

思えば、今年3月からこの映画に賛同する団体や個人に呼びかけ実行委員会として、どうしたら皆さんに見ていただけるかと相談を重ね当日を迎えました。ちょうど「いったいこの国はどうなってしまうんだろう」と国内で起きている出来事と重なっている最中でした。原発が再稼働された時期、この国で起きていることは「小さき声のカノン」に通底していると思います。

このドキュメンタリー映画は、福島の子どもたち、ママたちの放射能を気にしながらの生活を支えるお母さんたちの奮闘も見られ、全国の支援者の活動もありました。そして『保養』という活動がなぜ必要かもよくわかる内容でした。チェルノブイリ事故のあったベラルーシの現状と福島の現状とを比較し、何と大きな違いがあるのかも知っていただきました。監督がベラルーシで取材した内容が日本との違いを鋭く取材しています。

鎌仲監督のトークは心に響きました。福島の東電第1原発事故の模様をパワーポイントで映して説明されました。心に残るのは体内に入った放射性物質を汚染されていない地域に住んで21日でやっと半減すると言われている。福島での汚染状況を知ることが出来ました。

映画を観た方々からの感想も100を越え、書き綴った声の一部を紹介します。

★保養ということの認識、価値、重要性を知りました。子どもたちのために大人は知恵と行動を。私もがんばります。(30代)

★保養が被ばくした子ども達を少しでも救う手段になることを改めて痛感しました。出来る限りの協力したいと思います。(50代)

2015年9月26日(土) 湘南文化センター 市民シアター
(1)上映10:00〜 (2)上映14:20〜
11月10日(土)上映(11月10日(土)上映) 11月10日(土)上映



★今ではあまりTVなどで福島のことや被爆のことをやっていない。子どもたちにあんな症状が出ていることや線量が高いこと、お母さんたちが苦しんでいることをよく知りませんでした。今回この映画を見て知ることができてよかったです。チェルノブイリでは5年後に甲状腺がんがいると聞き福島はこれからだと思いました。私もこれからは関心を持ち続け、支援活動に参加していきたいと思いました。(20代)

★保養必要のメッセージの入った映画は初めて。「安全・安心・保養不要」福島のキャンペーンがなされる中、今こそ保養が必要な時期で非常にタイムリーな映画で大変良かった。上映が一区切り付いたら1時間ぐらいに短縮したDVDを発売してほしい。(60代)

★若いお母さんたちが大変な思いをしているのが私にもよくわかり、とてもつらかったです。でも前をみて頑張っている人々に何が出来るかももう一度考えます。(60代)

★正直、知らなかったことばかりでおどろきましたので、現場の人たちが真剣に現実に向き合っていることが心に残りました。(50代)

★とても驚きました。これからの時代を生きる子どもにとって影響を与える原発は廃止に向けて努力をすべきです。まだ自分も含めて原発の後遺症についてよく理解していない(70代)

(福島の子どもたちとともに湘南の会 荒井)

どうにかならないか？

土・日テラスモールの交通渋滞

車で辻堂駅に行くのに、土日では北からは1時間以上、南からは45分もかかる。これを嫌って知人は立場に転居したほどだ。そして大気汚染。県立西高校に向かう側の大庭トンネル中央のNO₂濃度は0.142 ppmもある（環境基準0.04～0.06以下、測定は昨年12月、市民による簡易カプセル測定）。この中を西高の学生は毎日自転車通学している。

そもそも、駅中心部の大駐車場というのが疑問である。この点についてのテラスモールを中心とした11社のシークロス協議会の認識では「もっと駐車場があれば解決できる」という基本認識である。開設時に、地元説明を3回やり、地元商店街さんにも説明もしてそうだったとのこと。大規模店舗立地法に駐車場設置基準があるが、現在の2500台というのは基準より多い駐車場の数である。現在は土日などは、徳洲会病院の駐車場も借りて、計3000台を確保している。

こうした渋滞対策としてテラスモールに聞くと、
①ホームページや広告での注意書き「土日は公共交通のご利用を」 ②ネットでの駐車場の空き情報 ③「ピットエコ端末」の利用 などをしていているとのことだ。このピットエコというのは、期間限定サービスで、夏休み・冬休み・ゴールデンウィークなどを中心に混雑しそうな期間に実施されており、スイカなどの利用券を端末にあてると50円分のポイントがテラスモールカードにたまるというもので、これは有望なシステムだ。

地域の住民はこれまでに次のような対策を要望してきた ①NO₂や粉塵などの環境測定を1ヶ月間位実施し、駐車場利用者数との関連を分析すること ②ピットエコ端末を常時施行して、公共交通利用者を増やすこと ③宅配サービスの採用（買った重たい荷物を店が配達）④駐車場利用者を効果的に減らせる科学的分析の実施と、利用者数と駐車場利用者数の公表など

以上、行政も本気に取り組んで貰わないと沿線住民はたまったものではない。「浜辺の歌」にも歌われた白砂青松の辻堂のイメージを大切にしたいと願う。

（森）

増え続ける汚染水

～海と魚の放射能汚染 part 2～

9月23日、たんぼぼ舎の山崎久隆さんによる汚染水についての学習会。実際は、東電福島第一原発の事故処理全体に関わるお話でした。

―山崎さんのお話から

■事故処理についてたんぼぼ舎は地下石棺を提案している。

■東京の江戸川は、汽水域の汚染が強い。海水と混じって泥が沈殿することと、浄水場のある関係。

■河川より湖沼の方が、体内に取り込みやすい有機物セシウムが多いので魚への影響が多い。

■生体濃縮度は、化学物質より弱い。

海水1：魚100 海水1：タコ50 など

■グリーンピースの魚の計測は、福島県の指導により2013年で中断。ポイントで測ることはいろいろやっているところはあるが、系統だって測って判断することは、行政に任せよということ。

■様々な情報を見ると、1日に10ベクレル食べ続けると心臓疾患などの影響が出るので、安全とは言えない。だから福島の土壌汚染を考えると福島の米は勧められない。

―山崎さんのお話ここまで―

この、最後の福島の米問題、私がデータを比べて、玄米でなく白米、更に炊いたご飯を1日にどれくらい食べるかと算出すると、最大で4ベクレル程度になりました。実際は、これ以下のはずです。山崎さんに問い合わせたところ、同意を頂きました。これを危険とみるかどうかは、判断が分かれるところだと思います。

ただ、福島県内でも様々に汚染軽減の努力が続けられていること、作物やその部位によっても汚染が違（う）（放射性物質の移行係数と表現されます）こと、更に有機農産物は汚染が少ないことなど、単に「福島の農産物」というのでない理解をしていただきたいと感じました。

（杉山百合子）



冊子紹介

『原子力発電所非常事態対策ガイド』

今年の夏、九州電力川内原発1号機が再び稼働を始め約2年間の「原発ゼロ」に惜しくも終止符が打たれた。避難計画等の不十分が指摘されている。

16年前私たちが発行した冊子の原本を初めて手にした時、米国にはこのようなものがあると驚き原発事故対策をめぐる和学な現実のお粗末さに不安と苛立ちを覚えた。

この「コネティカット州原子力発電所非常事態対策ガイド」は米国コネティカット州の原発周辺住宅に配布されたガイドブックを和訳し、オリジナルそっくり印刷製本して99年に配布を始めたものだが3.11以後再び注目を集め2011年5月の参議院行政監視委員会の意見陳述において参考人の1人である石橋克彦氏により紹介されたことが話題になった。

事故を経験し、私たちはどこに住んでいようが原子力災害とは無縁でいられないことを思い知るに至った。原子力災害に対しては万全な対策や完璧なマニュアルがあるとは思えない。

それでも、だからこそ、この冊子の中にある「避難移動」や「屋内避難」について、また、この中には記述が無いが「ヨウ素剤」について自身の問題として備えを怠らないこと、また、各自治体でも最大限対策を整え住民の意識を高めておくことが必要ではないだろうか。

この冊子が、地域やご自身の危機管理を考える上で一助になってくれればうれしい限りである。(小金井市に放射能測定器をつくった会 幸田頼子さんより)

放射能測定値

10月中に測定(晴れの日)	
(HORIBA Radi) 単位($\mu\text{Sv/h}$)	
藤沢工業高校前	0.034
辻堂Mr.MAX駐車場	0.041
辻堂モールフィル駐車場	0.052
〃 東側入口タイル上	0.064
円行地区引地川遊歩道	0.054



ONET INFORMATION

津波と防災-湘南の場合-

講師 川崎 健さん(東北大学名誉教授)

11月7日(土) 14:00~

市民会館第1展示ホール 参加費 700円

主催 湘南のなぎさを守る藤沢市民の会

協賛 藤沢エコネット 湘南学習会議

連絡先 0466-82-2036



祝 20周年 ふじさわ環境フェア

~藤沢 Eco2 まつり 2015 (詳しくはチラシを!)

11月21日(金) 9:50~15:30 市民会館で開催

萩原健司氏 記念講演 展示 クイズ他

主催 藤沢市 実行委員会

第48回みんなの消費生活展

11/14~15 10:00-17:00 明治市民センター健康プラザ 主催/問合わせ 藤沢市 0466-25-1111(2592)

せっけんを使った汚れ落とし~頑固な油污れ編

11月26日(木) 10:00-12:00 リサイクルプラザ藤沢

【講師】藤沢市せっけん推進協議会

【持ち物】エプロン、タオル、油污れのついた換気扇、
中身の入っていないオイルポット

【申込み】11月12日(木) 9:00より来館、電話、
ホームページにて受付 リサイクルプラザ藤沢

藤沢市桐原町23-1 TEL 0466-44-1998

<http://rpf.city.fujisawa.kanagawa.jp/>  

藤沢エコネットから

◆会員募集=年会費・購読料→3000円

◆事務局会議 11月12日(金) 14:00~
市民活動推進センター

《編集後記》文化の日11月3日は憲法公布の日であり「自由と平和を愛し、文化をすすめる日」。気象上晴天の日が多い特異日としても有名。藤沢市では11月はみんなの消費生活展(11/14, 15)ふじさわ環境フェア(11/21)と生活、環境行事がつづく。被ばく70年に当たる今年、11月3日は「被ばく問題を根本から見つめ直す」上映と講演の学習会が日大で開かれる。(A)